

## 式辞

厳しい冬の寒さも少しずつ和らぎ、吹き渡る風にも早春の気配が感じられる今日の佳き日、中の海会会長、<sup>しらね</sup> <sup>ひとし</sup> 白根 一 様、PTA 会長、<sup>えんどう</sup> <sup>ひろあき</sup> 遠藤 浩明 様、並びに保護者の皆様のご臨席のもと、島根県立安来高等学校、第 119 回卒業証書授与式を挙行できますことに、卒業生はもとより、本校教職員・生徒一同、誠に光栄で有り、心から感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与した 150 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして、今日まで限りなく深い愛情でお子様を見守られ、支えてこられました保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、これまで本校の様々な教育活動に際してご理解とご協力を賜り、お蔭をもちましてこの日を迎えられましたこと、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年も卒業式を前にして、コロナウイルス感染症の拡大がみられ、残念ながら在校生の出席はかなわず、来賓の皆さんも制限しての式とせざるを得ませんでした。

皆さんの高校三年間は本当にコロナに翻弄されたものでした。二年次の高校総体は奪われ、それ以降の大会等は何とか行われたものの、無観客など、頑張った姿を保護者の方や応援していただいた方に十分に見ていただくこともままありませんでした。また蒼輝祭や文化祭などの学校行事も来場者の制限や内容の縮小などある中で様々な工夫を凝らし、置かれた状態の中で最大のパフォーマンスを発揮し生き生きと活動してくれました。今年の体育祭の閉会式で「凧が一番高く上がるのは、風に向かっていている時である。風に流されている時ではない。」という言葉を紹介しました。まさにコロナ禍の向かい風の中、胸を張って風に向かって高く上がる凧のように凛々しい姿を見せてくれました。その姿勢で立ち向かった高校三年間を誇りに思っています。

さて、いよいよ卒業を迎え、四月からはそれぞれが就職や進学といった新たな道を歩むことになるわけですが、皆さんはこれまでの卒業生と大きく異なる点があります。それは四月一日から成年年齢が一八歳に引き下げられることで、四月一日以降成年として扱われ、自分一人でできることが増えるということです。たとえば、保護者の同意なく携帯電話やローンなど様々な契約を結ぶことができるようになります。ただ「自由」が増えるということはそこに「責任」が重くのしかかるということです。未成年の場合は保護者の同意を得ずに契約した場

合、不都合があれば「未成年者取消権」で契約を取り消すこともできるなど法律によって守られた面もありましたが、それはなくなります。これまでは高校を卒業して就職するにしても進学するにしても、二〇歳の誕生日を迎えるまでは未成年ということで保護者の監督の下で社会人となるために少しずつ経験を積みながら、成年としての自覚を身に着ける猶予期間がありました。しかし皆さんは高校を卒業して一か月、四月一日をもって「責任」ある一人の成年として尊重されるとともに「責任」とも向き合う必要があります。これからの一か月間、そのような意識をもって新たな旅立ちの準備を保護者の方と行う中で、契約やそれに伴う責任について身に着けていってほしいと思います。

私たちは、いままで当たり前とか常識とかと思っていたものが瓦解し、暮らし方や働き方、社会のあり方そのものが劇的に変化する時代に直面しています。併せて人々の生き方や価値観についても、これまでの常識や感覚が通用しない時代になってきています。そのような社会では周囲の状況を察知する高いアンテナと自分自身のしっかりとした考えを持ち、それに基づいて判断・行動をし、皆と協働して新しい未来を作り出していかなければなりません。その一端は総合的な探究の時間の中で発揮してくれたと思っています。自分はどう生きるべきか・行動すべきか、幸せとは何かなど人間の根源的な問題にも向き合わなければなりません。正解はありません。が自分なりの回答を模索するときに持っておいしてほしい視点として二つお話しします。

一つは「誠実さを持つ」ということです。中国の古典「韓非子」に「巧詐（こうさ）は拙誠（せつせい）に如しかず」という言葉があります。「巧詐（こうさ）」とはうまくごまかすこと、「拙誠（せつせい）」とは真面目で不器用なことですつまり、「うまくごまかすことは、真面目で不器用なことにはかなわない」という意味です。言葉がどれだけ巧みで話術に長けていたとしても、最後に人を動かすのは誠実さであるということです。性悪説を唱える韓非子であってもこれを認めているところです。このような姿勢を持つことが、卒業アルバムの全体写真のページに書きましたが、「愛される人間になれ」を実践することになると思います。

二つ目は安来高校の教育目標「きびしく 高く 美しく」です。皆さんが三年生になるときに、安来高校のグランドデザインを策定しました。その中で育てたい生徒像をこの教育目標に照らして次のようにしています。きびしく・自分と向き合う力として、よりよい社会の創り手として自分自身を律して責任ある行動がとれる人。高く・課題と向き合う力として新たな価値の創造のために高い理想を持ち探究し続ける人。美しく・他者と向き合う力として地域への愛着を基盤に

多様な価値観を認め合う共生社会を生き抜くことができる人。これらの力は先ほど話したような予測不可能な時代を生き抜くためには必要不可欠な力です。何か決断を必要とする際には一度立ち止まって、この教育目標「きびしく 高く 美しく」を思い出し、悔いのない決断をし、豊かな人生を送って欲しいと思います。

最後に、卒業生の皆さん。校歌は歌えますか。この二年間は始業式・終業式など校歌を歌う機会が奪われました。今日も歌うことは叶いませんが、この後校歌が流れます。もう一度しっかりとかみしめて聞いてみてください。校歌は同じ学び舎で学んだものが年代を超えて一つになれるものです。波静かなる中の海、雪清らなる大山、社日櫻の咲くところ、皆さんが育ったこの美しい故郷安来の姿と、新しき世に生きてゆくこの喜び、若き心を鍛えずや、光ささぐる人足らむ、と高校時代に皆さんが追い求めてきた姿が謳われています。卒業後安来を離れる人も残る人も、この学校で過ごした三年間の思い出と、故郷安来への誇りと愛着の詰まったこの歌を忘れないで欲しいと思います。近い将来大きな声で歌える日が来ることを期待し、そのときには皆が集って高らかに歌って欲しいと思います。

きびしく 高く 美しく 新しき代に光ささぐる人たらん 卒業生のこれからの人生に幸多かれと祈念して式辞といたします。

令和四年三月一日 島根県立安来高等学校長 柳樂 眞悟